

富士山！万歳！！

8月22日（月）～8月25日（木）

IN 国立中央青少年交流の家～赤岩八合館

	午前	午後	夜
1日目	施設に向け出発	施設に到着	作戦会議
2日目	荷造り・出発	富士登山	山荘到着
3日目	山頂出発・下山開始	施設到着・片付け	振り返り
4日目	施設清掃・施設を出発	施設見学・解散	

一日目： 夏一番過酷なチャレンジが始まりました。今年は七名のチャレンジャーが集まりました。京都からバスに乗って御殿場市へ向かいます。途中、何度も席替えをし、皆の仲を深めていきました。予定通り富士山の麓の施設、“国立中央青少年交流の家”に到着し、荷物を入れ、入浴、夕食を済ませました。夜は富士登山に向けて作戦会議をしました。富士登山の行程を確認し、こういった物が必要なのかを皆の備品を分け、隊列を考えました。翌日から長く険しいチャレンジが始まります。今日はしっかり寝て、明日に心身共に備えましょう。



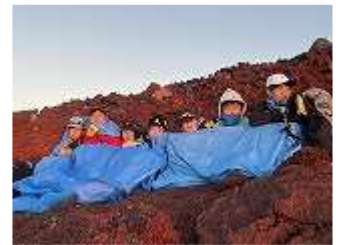
二日目： 長く険しい闘いの一日が始まりました。朝から皆の様子は少し緊張されていて、朝食後のパッキング(荷物詰め)から真剣に取り組んでいました。一日目から「自分で考える。」、「分からなければ友達に相談する。」を伝えてきましたので、それを意識して、ご自身で考え、分からないところは周りに相談されている様子が伺えました。パッキングを終え、ついに出発です。大きなザックを背負い、服装も整え、準備万端です。今回は、富士宮口から登り、御殿場ルートへ向かいます。富士宮口から五合目まで車で上がると、雲で覆われていて見えなかった富士山の全貌を確認することが出来ました。皆にとって予想以上の大きさと、驚きを隠せない様子でした。後に引いている様子の方がおられれば、意気込みが増している方もおられ、各々富士山に対して、思うことは違ったようです。五合目で昼食を済ませ、空気の薄さに体を慣らすために休憩した後、ついに出発しました。六合目までは、皆意気揚々で、楽しそうに登っていました。富士山は六合目からが本番です。蛇腹折りの道が延々と続くため、確実に皆の心身を疲弊させていきます。それに負けないように、声を出し合ったり、歌ったり、時には甘いもので英気を養ったりして登っていきます。それぞれ重たい荷物を持っているので、途中で友達の荷物を代わりに持つ様子が伺えました。あの手この手を駆使して、七合目に到達し、八合目に差し掛かる手前で3,000mに到達しました。そこから見える景色はまさに絶景で、何度も飽きることなく感動を与えてくれました。富士宮八合目から御殿場ルートに移動すると、目の前に宿泊先である【赤岩八合館】が見えてきました。最後の力を振り絞って、山荘からの声援もいただき、無事に予定通り全員山荘に到着しました。疲れ果てた様子でしたが、絶対に気を抜いてはいけません。ここで気を抜いてしまうと体調を崩してしまいます。皆、気を緩め切らず、考えて過ごされていました。赤岩さんでの楽しみが、夕飯の【カレー食べ放題】です。少しピリ辛ですが、皆、二杯、三杯とおかわりをされていました。夕食を済ませると、翌日は山頂でご来光を見るために、夜中に起きて出発します。それに向けての準備をしました。準備を終えた方から布団に入り、眠りにつきました。歩き疲れた体だったので、すぐに眠りにつかれました。



三日目： 今日は山頂まで行き、ご来光を見ます。夜の1時30分に起き、物音を立てないように準備を済ませ、2時に山荘を出発しました。天候は最良で、星に手が届きそうなくらい近く、相模湾を一望でき、街がキラキラと輝いていました。他にも沢山の登山客がおられ、我々と同じくヘッドライトの列があちこちに出来ていました。夜の富士山はもちろん真っ暗なので、黙って登っていると気持ちも沈みます。ゆえにお互い声を掛け合い、励まし合いながら進みました。4時を超えたあたりから東の空が徐々に明るくなってきました。



今回の登山ペースは比較的良く、皆のコンディションも良好でした。この日のご来光は5時11分でしたが、4時45分、無事に登頂することが出来ました。ご来光を見るポイントに到着する頃には空は明るくなっていました。東の空が更に明るくなり、ついに太陽が顔を覗かせました。私達の周りにも沢山の方がおられました。その瞬間、誰一人喋る事なく、眠気、疲れを忘れて昇る太陽を見つめていました。ご来光を見終わると、次は最高峰【剣ヶ峰】へ向かいました。ご来光のポイントより更に登った先にあるので、疲れ果てた体を頑張って起こし向かいました。剣ヶ峰到達の達成感は何に例える事も出来ない程大きく、皆の表情はこれまでで一番の笑顔でした。山頂でお土産を購入し、下山を開始しました。足元を気を付けながら、赤岩八合館に戻ってきました。赤岩さんで朝食の準備をさせていただいており、空腹にご飯と味噌汁はとて身に染みしました。朝食後、少し休憩をし、五合目へ下山を開始しました。行きとは異なるルートで下山します。蛇腹ではなく、山裾を真っ直ぐ走り降りられる【大砂走り】で一気に下りました。会話も弾み、楽しく下山していたので、あっという間に六合目まで戻ってきました。そして、ついにスタート地点の富士宮五合目に戻ってきました。この時初めて、心から安堵された様子が伺えました。施設へ戻る車内は皆、爆睡されていました。宿舎に戻り、片付けを済ませ、夕食、入浴を終えると、富士登山の振り返りを行いました。初日から富士山より帰ってくるまでを写真を使って見返しました。たった二日間の事なのに、何日間もと思えるほど懐かしく、深い内容でした。そして、富士山を通して見つけた自分について話していただきました。一人ひとりの言葉は富士山を登ったからこそ出てくる内容で、重く深い言葉でした。



四日目： 起床時間前に誰一人起きておらず、起こされても寝ようとするほど疲れておられました。起きてからまずは朝食を摂りました。朝食後は、皆で協力し、片付け、清掃と、自然と声を掛け合い、流れるように行いました。施設にお別れを告げ、関西へ向かいました。お土産を購入するために、途中のサービスエリアに寄りました。自分へのご褒美に、帰りを待つ方に、友達にと富士登山中程の真剣な表情で選ばれていました。帰りの道中、富士登山のご褒美として、名古屋市にある“トヨタ産業技術記念館”に寄りました。メンバーの中には機械仕掛けが好きの方が多く、目をキラキラさせながら展示物や体験を楽しまれていました。お土産もしっかり購入されており、みんなで見せ合っていました。記念館を出発すると後は帰るのみです。全体解散である京都に近づくにつれ、徐々に緊張が薄れ、疲れの色が濃く表れてきました。それでも初日の出発の様子と比べると、あきらかに逞しく、一回りも二回りも大きくなっていました。全体解散では、「またね!」、「また登ろうね!」とメンバー同士の繋がりも感じる事が出来ました。

<キャンプ総括>

これまでの“富士山!万歳!!”では、私が先頭に立ち、ペースや隊列を指揮し、登っていました。今回は、私は皆の隊列から外れ、出来る限り干渉しないようにし、私以外のリーダーとメンバーで登頂していただきました。前日から隊列を考え、その時その時に応じて変更し、時にはメンバーが先頭に立って登っている事もありました。後方からその姿を見守り続け、口を出したい気持ちをグッとこらえ(出てしまった時もありましたが…)、皆で下山完了まで頑張っていました。その姿こそ、私が富士山を登る際に、皆さんに求めている事であり、それを実現していただきました。登山初めは、ほとんどの方が自分の事を中心に考えています。その想いが時間と共に『皆へ』と変わっていきます。「困っている、辛そうにしている友達に今自分は何が出来るのか?」を考え続け、動かれた様子が伺えました。富士山を通して著しい成長を今すぐは見れないと思います。しかし、確実な成長はあります。それがいつか芽生え、皆さんにとって有益になることは間違いありません。その時、富士山の思い出として定着すると思います。最後となりましたが、富士山登頂、本当におめでとうございます。今回の達成を大いに『誇り』としてください。この誇りを胸に秘め、これからも頑張ってください。(竹中 哲郎)